

製造業の労働災害防止対策の好事例 リスクアセスメントについて

令和8年9月25日、30日 製造業の労働災害防止、労務管理に関する説明会

東近江労働基準監督署
安全衛生課 浜口 幸一

事業者名	一般社団法人健康ビジネス協議会
業界・業種	「健康」をテーマに異業種が集い ビジネスを創出する団体
会員数	154社(2025年10月現在)
地域	新潟県

背景(課題・ニーズ)

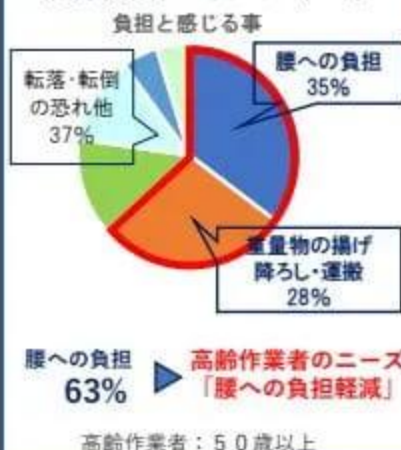
一般社団法人健康ビジネス協議会は、健康ビジネス創出の実現に向けて、産学官の連携を図りながら、業種の枠を超えた活動をしている団体。人手不足、高齢化の悩みを持つ建設業の現場で、**高齢作業員にとって最も課題となっていたのが「腰への負担」であった**。そこで、建設業の会員企業8社を中心に分科会を立ち上げ、「腰への負担軽減」の方策を検討して製品開発のアイデア出しを行い、スポーツウエアメーカーのオンヨネ(株)に試作品の製作を依頼。プロジェクトに参画している建設業者の作業員が試着し、対面での聞き取りを踏まえて仕様改良を重ね、新潟医療福祉大学で効果の検証を行ったのち、今春市場リリースとなった。超高齢社会で、腰痛に悩みを持つ他の業種への展開可能性も期待される。

取り組んだプロジェクト内容

分科会メンバー：株植木組・株加賀田組・グリーン産業株・株興和・株福田組・株本間組・明和工業株・ミドリ安全新潟株
オンヨネ株：新潟県長岡市のスポーツウエアメーカー(オンヨネ公式サイト | <https://www.onyone.co.jp>)

1. 負担の明確化

(高齢作業員214人へアンケート)



2. 「腰への負担軽減」の製品開発アイデア出し

① 建設作業の観察

実作業から、「腰への負担」が明確な作業姿勢を特定



② 他社品の試着

市販されているアシストスーツで効果等を体験、検証



「腰への負担」軽減効果は感じるが、服装・保護具と干渉する

【ポイント】フルハーネス型安全帯・腰袋の装着



③ 開発ポイントの明確化

- ・装着重量が軽い
- ・装着したまま多様な作業ができるor簡単に着脱できる
- ・フルハーネス型安全帯を装着していても苦にならない
- ・雨天でも使用できる
- ・値段がリーズナブル

【アイデアイメージの構築】



3. アイデアの具体化(プロトタイプ作成～製品化)

① プロトタイプ作成

様々な姿勢で作業を行う建設作業員。作業時に違和感が少なく、正しい姿勢をサポートする事で腰への負担を軽減するウエアを試作



姿勢保持・起き上がり動作サポート
ウエストベルトで骨盤安定
・ストレッチメッシュの清涼感
・ずり上がりにくい裾仕様

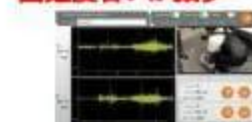
② 作業員による試着・改善

試作品を作業員40名に2週間着てもらい改善提案をヒアリング。改善品を再度試着のうえ、最終仕様を確定



③ 効果の検証

被験者が持ち上げ動作時に肚力VESTを着ることで、腰部多裂筋の筋活動が増加し、**困難度合いが減少**



やってみての効果

上記のプロセスを経て、2025年4月～本格的に市場リリース。試着テストに参加し、改善の提案をして頂いた作業員が中心となり普及中。全国規模の催しにも展示訴求を行い、良さを体感してもらう事で、約1,100着の導入に繋がっている。(2025年10月現在)また、「正しい姿勢サポート＝体幹サポート」といった観点において、**スポーツ用途で使用するユーザーも多く今後は様々な分野、年齢の方たちに「健康」を享受するアイテムとしていきたい。**



今後の目標や展望

● サポートウェア「肚力ベスト」のビジョン【オンヨネ株】

・建設業だけでなく、介護、運送、製造、デスクワークなど同様の悩みを抱える業種への普及を行う。また働く現場だけでなく、趣味、レジャーなど幅広い分野に適応範囲を広げ、**心身ともに末永く健康な生活が送れる社会づくりに貢献していきたい。**

● (一社)健康ビジネス協議会のビジョン

・超高齢社会で、多世代が共生しWell-Beingで持続可能な社会を、**産学官及び異業種の会員企業が連携を図りながら、社会課題を解決するためのビジネスとして創造したい。**



社員が企画・出演・演出・監督した 自慢の「安全ビデオ」の制作



事業者名	フジッコ株式会社
業界・業種	食品製造業
従業員規模	2380名
地域	兵庫県

背景（課題・ニーズ）

従業員の安全と健康の確保は事業者の責務です。当社では近年増加傾向にある「労働災害」をゼロにするという目標を掲げ、特に製造現場における安全教育に力を注いでいます。しかしながら、これまで行われてきた安全衛生教育は、正しい反面、どうしてもつまらないものとなりがちでした。そこで、どんなものなら社員が興味を持ってくれるだろうか、前向きに学んでくれるだろうかを考え、自社で「安全ビデオ」を制作することになりました。

取り組んだプロジェクト内容

過去5年分の労働災害事例をコアメンバーで徹底的に分析・分類し、社員が企画・出演・演出・監督した自社開発の「安全ビデオ」を制作しました。初回生産版として「衝突編」「転倒編」「身近な危険編」など、5パターンを社内に展開しています。間違った行動（事例）と正しい行動（見本）を撮影し、「これ一本で、教育が決まる」ことが特長です。撮影期間は3日、編集は約1か月です。

映像の編集にもこだわり、どこに出しても恥ずかしくない作品に仕上げました。どのような企業においても応用できる「再現性の高い取り組み」であると自負しています。

参考映像「転倒編」はこちらから



社員による名演技！
文字通り「体当たり」で挑みました

やってみての効果

社員が出演していることで、足を止めてビデオに見入る従業員の姿を確認しています。全国の工場における教育格差をなくすことができたこと、教育担当者の負担減になったことが何よりの成果です。

今後の目標や展望

よく陥りがちな一方的な教育に終始することなく、今後も社員自らが面白がってかわかることのできる手法を探究し、お金をかけずに、知恵で勝負する、明るく・前向きな安全衛生活動を継続することを誓います。

事業者名	株式会社三五
業界・業種	製造業
従業員規模	2675名
地域	愛知県

背景（課題・ニーズ）

近年、60歳を迎えても働きたいニーズが増えているが、シニア世代の従業員の方で転倒による怪我により休業しなければならないケースを目の当たりにした。健康経営を推進するにあたり、まだまだ習熟した知識と経験をお持ちのシニア世代の従業員に今後も元気にご活躍いただくために、ご自身の体力にじっくり向き合ってください、転倒しにくい身体づくり・いきいき働くための体力づくりのきっかけになるような施策を行いたいと考えた。

取り組んだプロジェクト内容

いつまでも健康でいきいき働くために
～58歳からはじめる無理のない体力づくり～

58歳以上のシニア世代(305名)に体力測定・運動セミナーを実施。(計17公演)
運動指導士さんに監修頂き、保健師・看護師で協力して実施した。

1, 体力測定で自身の体力の現状把握



2, 体力づくりの必要性の講義



3, 転倒予防の運動セミナー



やってみての効果

事後アンケートで「体力の衰えを自覚した」「体力維持の必要性が分かった」「運動を続けて次年度、今年の自分を抜かしたい」というご意見を頂いた。

今後の目標や展望

本年度の体力測定は全国平均値とご自身の数値を比較したが、次年度以降は過去の自分との戦いも実施したい。また次年度は体力づくりに欠かせない「体力維持のための食事」についてもセミナーを開催したい。

背景（課題・ニーズ）

機内の職場を中心に、アフターコロナによる生産量回復に伴い、腰痛や転倒などに起因する労災件数が増加している。こうした背景を踏まえ、これまでのオリジナル体操やエクササイズに加え、ピラティスの要素に基づき、基本的な立ち姿勢や歩き方から学べる動画コンテンツを作成し周知、浸透に取り組んできた。まずは身体を支える肝となる「足の特徴」に着目した姿勢の見直しに着手した。次のステップとして、社員の身近で具体的な業務上の事象へ対する対策へと、より深掘したアプローチが必要であると認識し、取組を行った。



取り組んだプロジェクト内容

- ①ピラティスのマスタートレーナー & ボディムーブメントコーチ®と連携し、職場環境の視察や労災事象の分析を行ったところ、「正しい身体の使い方」を周知する事で労災を未然に防ぎ、社員が安全かつ健康に働ける環境づくりに繋がる予測が浮上した。
- ②①の予測に基づき、空港・機内の実務毎に、業務上の特有な動き（ミールサービス、コンテナ引き出しなど）に焦点を当て、特に意識すべき6項目を具体的に解説した動画を作成。現状で多く見られる「身体の使い方」と「正しい身体の使い方」を比較できる工夫を施した。
- ③作成した動画は定例会議での視聴や新入職員への視聴案内・社内ポータルサイトに掲載等を通じて、いつでも何度でも視聴できる機会を設けた。これにより、社員の身体の使い方を根本的に改善し、労働安全衛生管理の強化を図った。



やってみての効果

CA①

～社員からの声・感想～

正しくない姿勢で負担をかけない・腰に負担をかけないよう膝をうまく使い、姿勢に気を付ける・重心をうまくコントロールすることの大切さを学びました。

CA②

正しい姿勢と正しくない姿勢を比べているので、同乗クルーが正しくない姿勢をしているときに動画を根拠に、「痛めやすいらしい」ですよと声をかけやすくなりました。

★実績・効果★
本動画視聴率：客室部内の69%(2025年3月末)
労災発生率：2025年度上期 対前年▲20%

今後の目標や展望

客室部門に加え、身体を動かすことの多い他部門においても各部門特有の労災防止を目指すべく、全社員を対象に「**正しい身体の使い方**」に対する意識改革と行動変容を促す。これにより、グループ全体での労災の減少に繋げていき、身体の不調によるプレゼンティズムを改善していく。

「安全表示・人づくりコンテスト」の取り組み

背景（課題・ニーズ）

当社は、自由に表示を作成できるプリンタを販売する事務機器メーカーです。製造業を中心に多くのお客様に導入いただいておりますが、現場では安全表示の形骸化や安全衛生活動のマンネリ化が課題となっています。そこで、楽しく自主的に安全表示活動に取り組んでほしいとの思いから、2018年より毎年「安全表示コンテスト」開催し、これまでに502社の企業に参加いただきました。このコンテストを通じて、職場の安全意識を高め、コミュニケーションを活性化する取り組みを全国で広げています。

取り組んだプロジェクト内容

「皆で表示を考える活動」を提唱

- ・危険箇所を自ら確認し、皆で表示を考えることで**安全意識が高まる**
- ・職場の**コミュニケーションが深まる**



①災害発生場所や危険箇所を皆で確認

②どんな表示が必要か皆で考え作成

③作成した表示を皆で現場に貼る

④その表示で具体的な行動がとれるか確認

「安全表示・人づくりコンテスト」を開催

今年度は **83社 139作品**の応募

（参加企業、一般企業による投票で入賞作品を決定）

- ・表示の写真に、**課題・背景、工夫した点**を添えて応募
- ・投票に参加することで**他社の表示や安全活動が学べる**
- ・応募作品を毎年冊子にまとめ全国のお客様に**無料配布**



応募作品例



応募作品集

「安全交流会」で業界を超えた交流

昨年度は **約200名**が参加（WEB参加含む）

- ・毎年1月に表彰式と**安全交流会**を開催（誰でもWEB参加可）
- ・入賞企業の**活動報告**や**座談会**で安全の情報を共有
- ・普段関わりのない**業界の取り組みが学べる**と大好評



表彰式



安全座談会



安全活動報告



皆で記念撮影

やってみての効果

～ **多くの企業で安全活動やコミュニケーションの活発化、安全意識の向上につながっています** ～

- ・受賞をきっかけに**グループ全体で安全表示活動を活発化**させ、安全な職場づくりに取り組んでいます。 / 日世(株) 様
- ・毎年参加していますが、**他の業界の事例は大変参考になり**良い刺激をいただいています。 / (株)青山製作所 様
- ・**皆で議論して表示を考えることで**今まで気づけなかったことに気づき、**より安全意識が高まりました**。 / 住友化学(株) 様
- ・3人チームを組み危険箇所や改善点を洗い出しました。**安全表示の重要性を改めて学びました**。 / 富士車輛(株) 様
- ・応募にあたり職場間で表示について話し合い、**コンテストがコミュニケーションツールになりました**。 / (株)デンソー 様



昨年度 最優秀賞 日世(株)様

今後の展望

- ・お客様での社内安全表示コンテストの開催
- ・他社の事例を取り入れた安全表示や安全衛生活動
- ・安全交流会参加企業同士のコラボ活動 等

コンテストをきっかけにさまざまな自主活動が生まれています。
ゼロ災害に向けて、さらに「安全表示の交流」を広げていきます。



リスクアセスメント

- 危険性又は有害性(以下、「ハザード」)を特定し、リスクを見積もり、その結果に基づくリスク低減措置を講ずること。
- 基本となる指針
「危険性又は有害性等の調査等に関する指針」
- 対象の種類に対応した指針
「化学物質等による危険性又は有害性等の調査に関する指針」
「機械の包括的な安全基準に関する指針」
- 代表的なもの
マトリクス法、コントロールバンディング、安衛研、クリエイトシンプル 等



基本的なRAの実施手順

- ハザードの特定
- ハザードごとのリスクの見積もり
- 優先度の設定、リスク低減措置の検討
- リスク低減措置の実施



- 危険状態が生じる頻度

頻度	評価点	内容
頻繁	4点	1日に1回程度
時々	2点	週に1回程度
めったにない	1点	半年に1回程度

- ケガに至る可能性

ケガの可能性	評価点	内容(発生確率、回避の可能性)
確実	6点	常に注意を払っていてもケガをすることがある
可能性が高い	4点	注意を払っていないとケガをする
可能性がある	2点	うっかりするとケガをする
ほとんどない	1点	特別に注意をしていなくてもケガをする

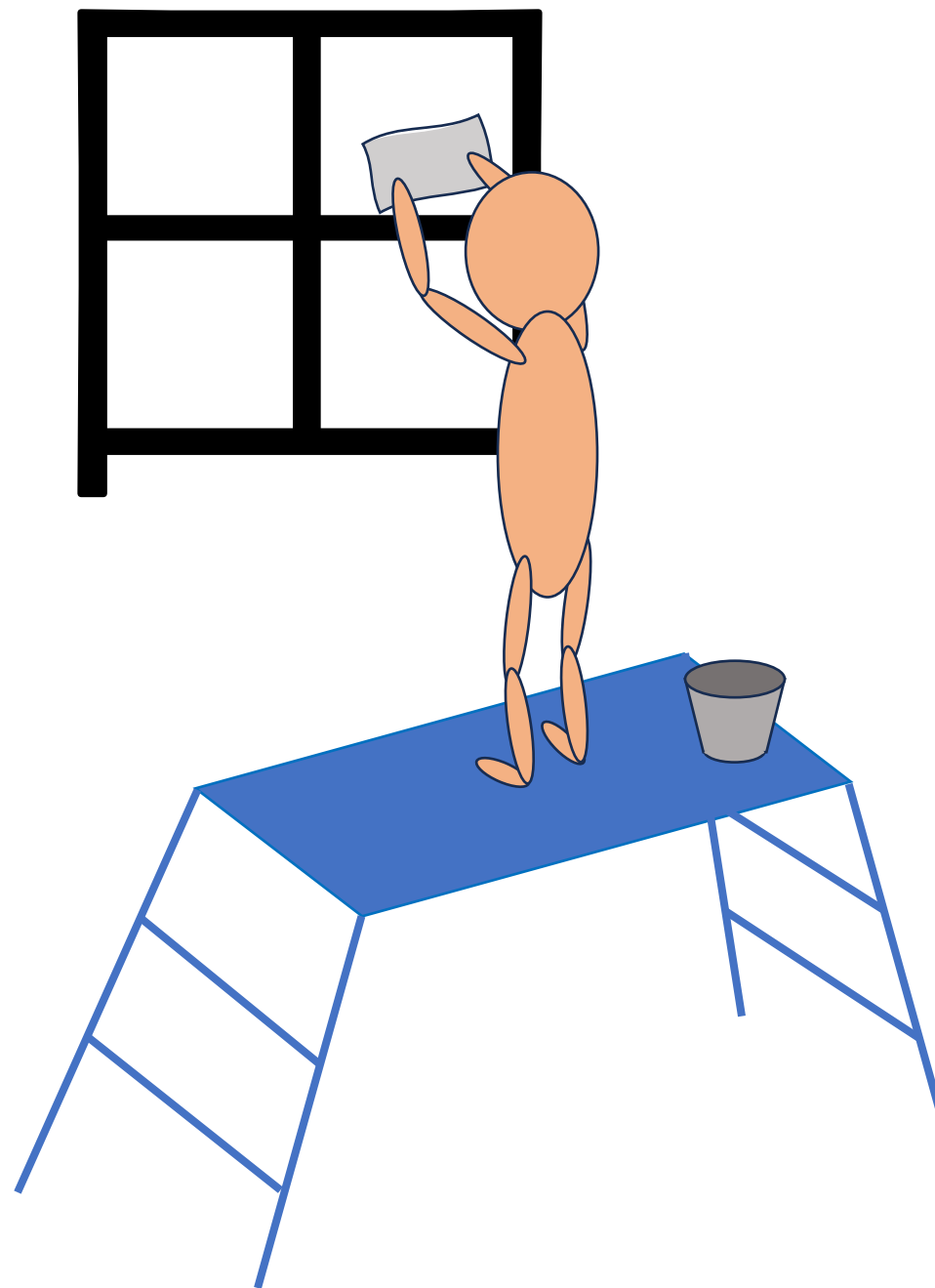


・ケガの重篤度

重篤度(重大性)	評価点	内容
致命傷	10点	死亡や永久的労働不能、障害が残るケガ
重症	6点	休業災害(完治可能)
軽傷	3点	不休災害
微傷	1点	手当後、すぐに元の作業に戻る

・リスクレベルとリスクポイントの対応

リスクレベル	リスクポイント	リスクの内容	低減措置の進め方
Ⅳ	13～20	重大な問題がある	直ちに行う 講ずるまで作業停止
Ⅲ	9～12	問題がある	速やかに行う
Ⅱ	6～8	多少の問題がある	計画的に行う
Ⅰ	3～5	ほとんどない	必要に応じて行う





- 災害に至るプロセス

作業台を使用して窓の清掃作業をしているときに力を入れて窓を拭いた反動でバランスを崩し、作業台から転落して頭を打つ

頻度	可能性	重篤度 (重大性)	評価点合計	リスクレベル
1	2	10	13	IV



安全対策の優先度

個人用保護具使用

リスクの低減
ヘルメット、マスク、手袋

等

管理的対策

リスクの回避
教育訓練、作業管理、
手順書の作成、4S活動

等

工学的対策

リスクの隔離
機械設備の囲いや安全装置

等

本質的対策

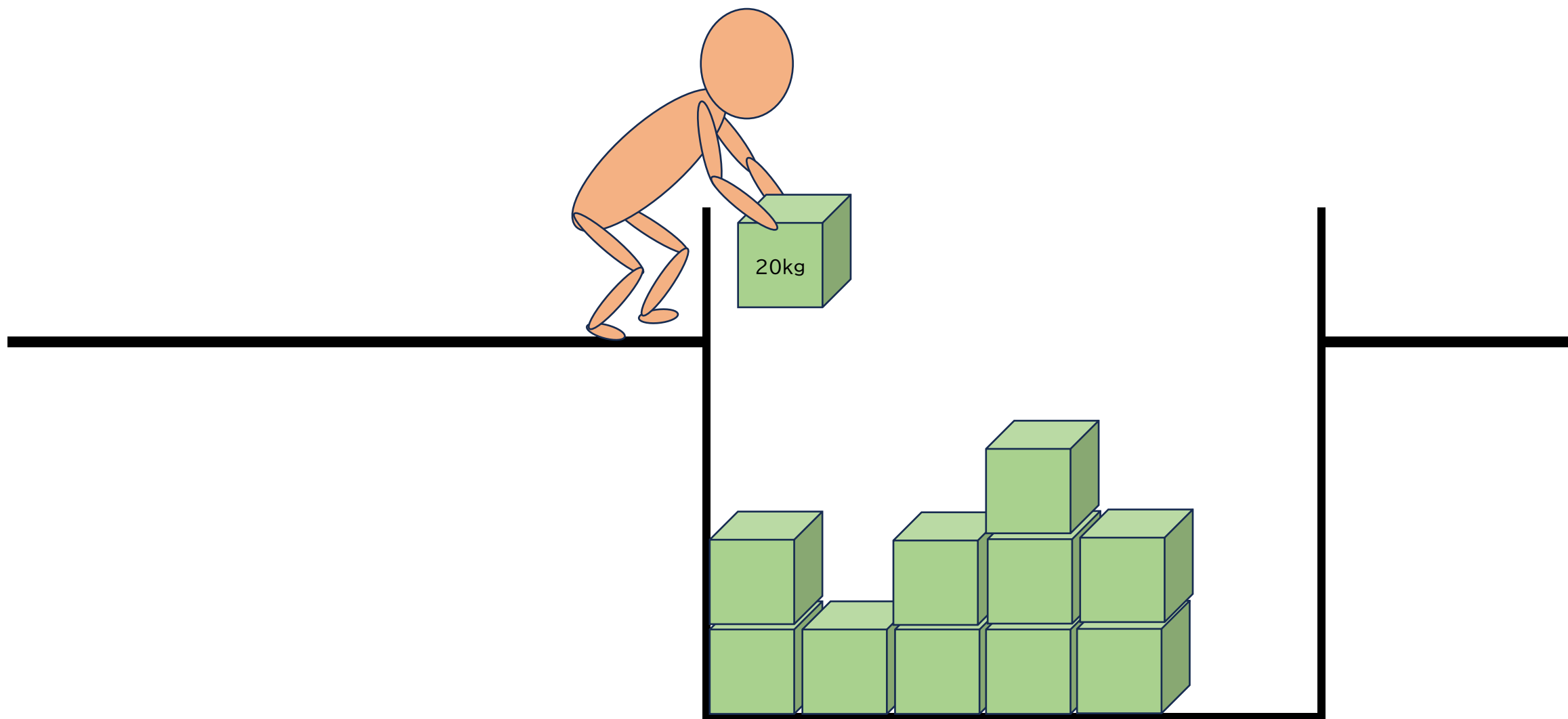
リスクの除去
危険作業をなくしたり、
仕事の計画段階から危険を除去

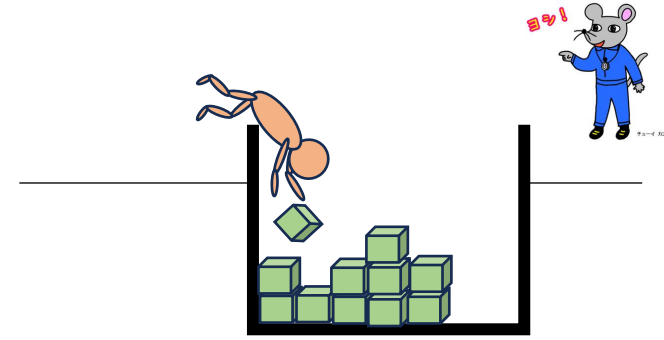
等

高

優先度

低

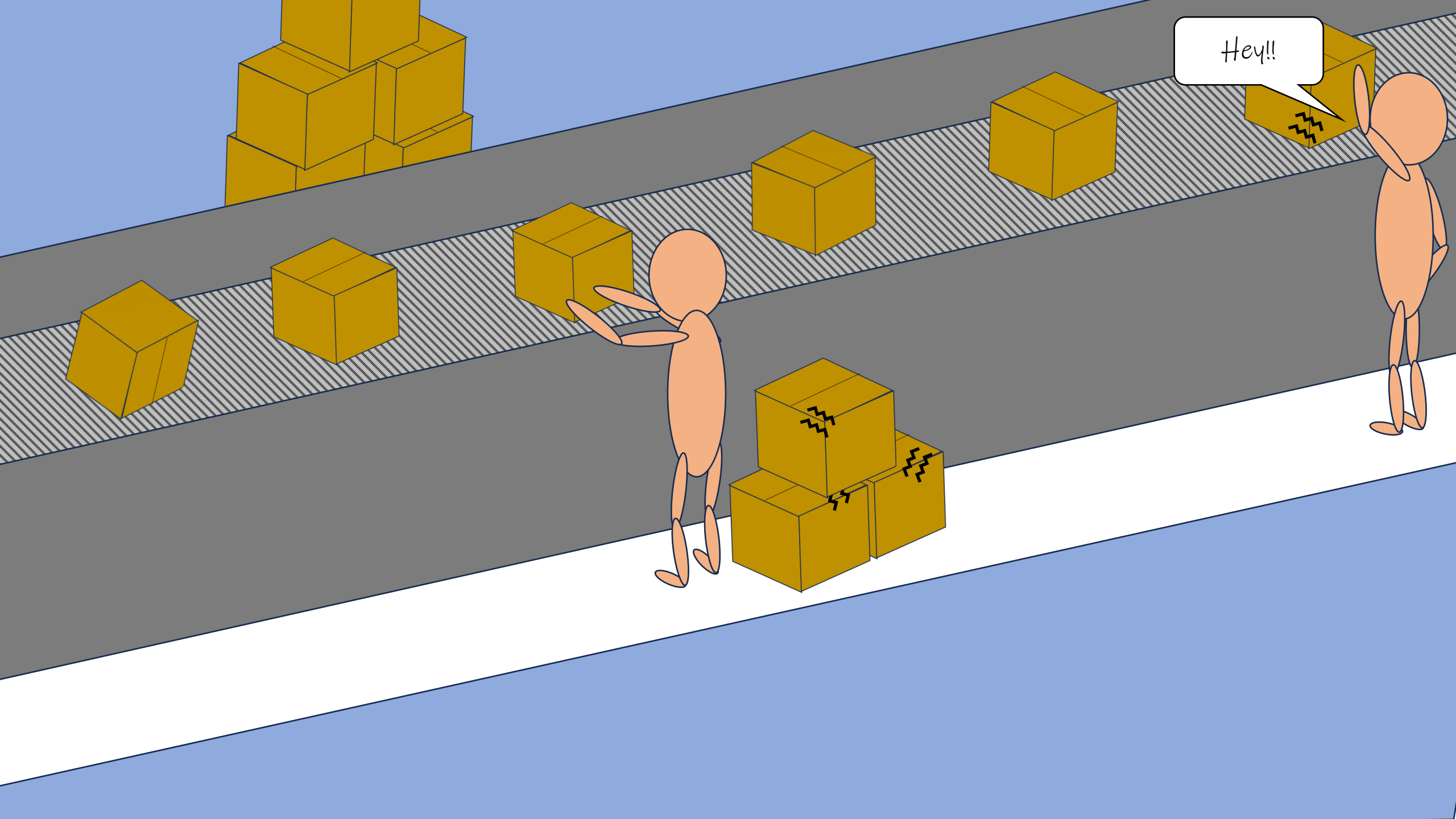




- 災害に至るプロセス

身をかがめながら材料を投入する作業で、腰をかがめて身を乗り出しながら投入しているとバランスを崩して墜落し、頭を打って重傷となる

頻度	可能性	重篤度 (重大性)	評価点合計	リスクレベル
4	2	10	16	IV



Hey!!



- 災害に至るプロセス

頻度	可能性	重篤度 (重大性)	評価点合計	リスクレベル



(配信停止中)

コントロールバンディング

化学物質の健康有害性についての簡易なリスクアセスメント。

ILO(国際労働機関)が、開発途上国の中小企業を対象に、有害性のある化学物質から労働者の健康を保護するために、簡単で実用的なリスクアセスメント手法を取り入れて開発した化学物質の管理手法です。

厚生労働省版コントロール・バンディングは、より簡易的に利用できるようにウェブシステムとして開発されたものです。

【液体または粉体を扱う作業(鉱物性粉じん、金属粉じん等を生ずる作業を除く。)]と【鉱物性粉じん、金属粉じん等の生ずる作業】の2つのシステムがある。



安衛研手法

(中～上級者向け)

主に**化学プラント・設備**における**火災や爆発、漏えい、破裂**などのプロセス災害を防止することを目的としたリスクアセスメント等の進め方を厚生労働省の指針に沿ってまとめたツール。

スクリーニング支援ツールよりも精緻なリスクアセスメントを実施することが可能(**一定の専門知識を要する**)。



クリエイトシンプル

- 化学物質管理者
- 化学物質管理者は、事業者が事業場の規模にかかわらず、リスクアセスメント対象物を製造、取扱い又は譲渡提供する事業場ごとに選任しなければならない、その職務として当該事業場におけるリスクアセスメント対象物の管理に係る技術的事項を管理させなければならない(安衛則第12条の5参照)。
- 化学物質管理者は「化学物質の管理に係る業務を適切に実施できる能力を有する者」とされ、ラベルやSDSの確認と化学物質に係るリスクアセスメントの実施の管理、リスクアセスメント結果に基づく露防止措置の選択・実施の管理、自律的な管理に係る各種記録の作成・保存、労働者への周知・教育等を担い、これらの様々な職務を関係者や専門家と協力して進めることが期待されます。

化学物質のリスクアセスメントについて

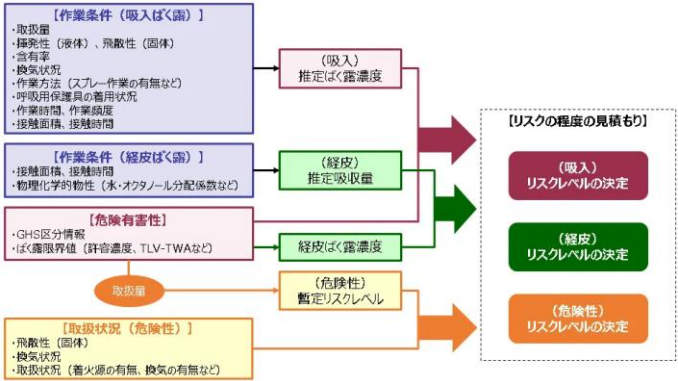
～業種・作業別マニュアルと解説テキスト～



クリエイトシンプル

検索

CREATE-SIMPLE





チューイカン吉
労働現場での熱中症予防
など労働災害防止を注意
喚起するキャラクター